

メビウスゲイト 桜田門

龍道真一 [著]

幕末の動乱のさなか、大老に就任し、
大震災や大火、コレラの流行など、
度重なる災害に見舞われながらも、
日本の開国近代化をめぐり、
ゆるぎない信念をもって、
自らの命を賭して決断を下した、井伊直弼。
その事績を、SFの手法を用いて、近未来との対比により、
至極わかりやすく描き出す、渾身の一作！



表紙：スカイエマ

目 次

第一 章	異 変
第二 章	江戸屋敷
第三 章	彦根の記憶
第四 章	疾風怒濤
第五 章	決 断
第六 章	狂愚の師
第七 章	赤い牙
第八 章	幽霊研究所
第九 章	楯
第十 章	正義と思想
第十一 章	炸 裂
第十二 章	龍の舞い
第十三 章	桜田門
第十四 章	輝く星々
あとがき	

著者プロフィール

龍道真一(りゅうどう・しんいち)

1953年生まれ。早稲田大学理工学部中退後、京都大学工学部を経て、1980年、同大学工学研究科修士課程修了。大手電機メーカー勤務のかたわら、企業小説『大衆は神のごとく正しい』(1993年)で作家デビューし、『七難八苦、我に与えよ』(1994年)、『陽よ、明日に輝け！』(1995年)を発表。阪神大震災の際には、自らの体験をもとにした『裂けた空のかなたに』(1996年)を刊行し話題を呼ぶ。その後、『白輪一 小説・伊能忠敬』(1999年)、『化天一小説 最後の武士・井伊直弼』(2004年)といった時代小説を精力的に執筆、現在に至る。